

# 山田みやこの活動報告

令和2年11月9日(月)

## 昭和女子大学創立100周年記念シンポジウム(オンライン) 「女性リーダーは世界を変える」を視聴

共催 朝日新聞社

〈坂東 真理子総長の基調講演〉

「リーダー像のパラダイムシフト」

昭和女子大創立者は女性にも教養が必要。それから100年、21世紀の社会的課題になっている。世の中が大きく変わってきたが、まだ変わってないものもある。

価値観の大きな変化が起きている。生産性・効率性を求め、多様な経験・バックグラウンドのある方が必要。

リーダーシップスタイルが変化している。

女性の適正に対するアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)  
※女性の適正に男女ともにとらわれている

- 男性のアンコンシャスバイアス  
女性には責任のある地位につかたがらない  
女性はまだじめに勉強するので試験には強いが伸びしろが小さい
- 女性のアンコンシャスバイアス  
女性が責任ある地位につくと、男性・女性から嫉妬される  
女性が成功するには、余程優れた能力がないとダメ  
メンターやロールモデルがないから無理

このアンコンシャスバイアスを実例を見せることで変えていく。一人ひとりが自分たちの行動によって社会を支えること。一人ひとりの能力の発揮は違っていい。女性の働きやすい職場は創造的な才能が発揮できる職場。また女性自身の努力や意欲で一步踏み出すこと。多様な生涯学習の機会を持つこと。

女性リーダーの割合や人数を増やすのが目的ではなく、社会課題に取り組み現実を変えるリーダーが求められている。今までと異なる価値を実現するリーダーを女性に期待する。

〈「未来志向のリーダーは」パネルディスカッション〉

【パネリスト】

花王株式会社社長 澤田 道隆氏/永山祐子建築事務所代表 永山 祐子氏  
ボストンコンサルティンググループ 秋地 玲子氏/昭和女子大現代ビジネス研究員 治部 れんげ氏

花王株式会社社長 澤田 道隆氏 「多様性を上手く生かすことで変化に繋がる」

花王の女性活躍は1990年女性活躍推進担当機能を人事部に設置。1991年に育児休暇+男性の意識改革(風土改善)のメリーブタイム制度、2006年に男性の育児休暇、2008年に介護支援の取り組みを開始。

自然な流れで達成することが重要。それには意識改革(風土改善)、生産現場に女性を配置し力づくでなく道具を使うことによるきめ細やかな工夫、それが高齢対策にも繋がった。

15名の女性リーダー(光る原石)を会社で人が育つ現場を作っていく、見事に成長して支える人材になっていった。人をワクワクさせる人、運をもっている、力を引き出す力を持っている人が今後のリーダー。女性の方が多いかもしい。

『今日のメッセージ「迷ったときに一歩進む」』



永山祐子建築事務所代表 永山 祐子氏 「2人の子育て中、2回の出産時にビックプロジェクトに出会う」

昭和女子大の学生ホールを設計。ドバイでの国際博覧会の日本館を設計。

子育てしながら経営者になるには、自分一人だけでは無理、社会のサポートが必要。女性が少ない建設設計の現場では、じっくり話をきて理解してもらった。最初からこたえを出さず、各プロジェクトにおいて話し合い、答えに導いていく。未来型のリーダーは人に任せる勇気により効果が出る。一緒に乗り越えることができる。

『今日のメッセージ「好きな手を見つけると広がっていく」』

ボストンコンサルティンググループ 秋地 玲子氏 「世の中の不確定さで不安定の中で会社の成長は多様性が必要」

先輩女性の頑張りもあり今がある。心配しすぎたりせず周りの方に頼ったりすることも必要。小さいことでも周囲に影響を与えることで社会の変化がある。自分の出来ることをまえ向きにしていく。簡単に解決できることは難しい社会に生きている難しさはあるからこそ、賛同してくれる人を作っていく。良い議論をして良い決定をする。

『今日のメッセージ「答えが分からなくても大丈夫、進めば見えてくる」』